

## 難民をたすけないのは殺人と同じ

地中海を渡って来るボートピープルは、アフリカではエチオピア、ソマリア、ナイジェリア、リビア、チェニジアあたりから、アラビアでは内乱に喘ぐシリア、イラクあたりからチェニジアに集まり、仲介斡旋業者に一人当たり2,000～3,000ドルを支払ってゴムボートにすし詰めに入れ、チェニジアから一番近いイタリアの南ランペドゥーザ島にやって来る。難民の数は年々増加し、2015年1月から8月10日までにイタリアに到達した難民は10万人をこえている。その中で特に多いのはソマリアとナイジェリアからだ。8月には内乱の続くシリアを出て、ギリシャからマケドニアに入り、電車でドイツのベルリンに向かう難民も急増している。海ではすし詰めボートの転覆したりして、犠牲者が急増している。特に今年4月には約800人がゴムボートの転覆で死亡する事件があった。そんな中、イタリアは傍観するわけにいかず、沿岸警備隊が救助活動にあたっているが、とてもイタリア一国で処理できる事態ではないため、EU連合に協調、協働を求めている。EU議会も、人道的立場から当然難民をたすけなければならないと言っている。

しかし、難民を救い、収容設備に入れ、衣服、食料を与えているのは、財政的には決して豊かでないイタリアなのだ。そのため救助活動に穴が空くこともある。多くのEU諸国は、いざとなると声を濁し、救助活動に手を出さず、必要経費も出さない。最近では、イギリスが、イギリス国内で職の決まっていな者は入国することならずと宣言した。7月頃イタリアからフランスへ入国しようとした多くの難民はフランスの移民官に押し返され、国境の町ヴェンティミリアの海岸の岩の上にテントをはり、フランス入国の許可が出るまで、何日も炎天下で過さざるをえなかった。

こうした状況で、ローマ法王フランチェスコは声明を発表した。地中海を渡って来る難民を救うこと、受け入れることは人間の道徳である。公海上で溺れ死にそうな人を救いあげるのは人間の義務である。その義務を怠り、死に向かい、おぼれかけている難民を放って置くことは全く殺人と同じことであると述べている。

その声明を受けて、イタリア司教会議の総書記で、法王の信頼も厚く、法王と同じイエズス会の大司教ヌンツィオ・ガランティーノ氏は次のように述べている。「カソリックは常に移民について考えている。資金も人も知恵も提供している。これは昔から続いていることだ。時代と場所によって少しずつ形態は変わっているとしても、本質的には継続性をもっている。政治的にはあまり関与していない。法王は難民を追い返すことは殺すことと同じであると言っているように、我々は殺人を見逃すことも黙っていることもできない。」

さらに、ローマカリタスの責任者エンリコ・フェローチ大司教は次のように述べている。「イタリア人よ、ゴムボートでやって来る難民をたすけよう！ 難民たちは苦しみの祖国で死ぬより海で死ぬ方がましだと考えているのだ。救済を完全にするのは精神的豊かさであり、また、経済的豊かさである。恐れや憎悪を増すことは一方から他方に対する文化の敵対である。」

法王の声明に対して、イタリア政界の二人が声を張り上げてヴァチカンと法王を非難している。一人は、イタリア北部同盟のヴィリーニ氏、もう一人は、イタリア五つの星運動の党首グリッロ氏である。彼らは次のように言っている。「そんな救済活動をするお金はイタリアにはない。イタリア国内を見ても失業者が溢れている。特に若者の失業者が多い。それを解決するのがイタリアの第一目標だ。」

## 法王：司牧の旅で南米3国へ

法王フランチェスコは8月6～13日に南米エクアドル、ボリヴィア、パラグアイの3国を訪問した。この3国は、世界の中でも特に貧しい国とされている。8月6日にエクアドルに到着した法王は「南米にまた来られたことを神に感謝している。現代の貧困に直面する国々で、対話を促進し、皆の参加のもと物事を推進して行く鍵を見出したい」と述べている。

この地のキリスト教伝道は1586年イエズス会士によって始まっている。イエズス会士は1767年に追放されるが、その時にはもう多くの信者がいた。

2番目の訪問地ボリヴィアではハプニングが起きた。ボリヴィア大統領エボ・モラーレスは原住民の出身で、共産主義者である。大統領から法王への贈り物はハンマーと鎌が組み合わさった共産主義のシンボルの上に、キリストが張りつけになっている十字架だった。法王周辺の人たちの裏話として「このような贈り物を貰って一番喜んだのは故ヨハネ・パオロ2世だったろう」と言われている。

ローマへ帰る機内での記者会見では次のように述べている。  
問：ハンマーと鎌の十字架を贈られたとき、いかに反応したか。  
答：全くの驚きだった。しかし、よく考えてみれば、反抗の美学である。これに似たようなものが、ブエノスアイレスにあった。著名な芸術家の作品で、戦闘機の上にキリストが乗っているものだった。それは帝国主義と結びついたキリスト教への批判であった。

## ヴァチカンも節約の時期に突入

2013年3月13日にベルゴリオ氏が法王に選出され、フランチェスコと名乗ることになった。フランチェスコは貧者、弱者の味方である。法王はヴァチカン内に居住しているが、従来の法王たちのように豪華絢爛たるヴァチカン宮殿には起居していない。そこを使用するのは毎週日曜日のアンジェルス、国賓級の客との会見、接待のみである。法王は食事にも衣装にもこだわらず、サンタマルタ宿舎の食堂で昼食も夕食も摂り、合成繊維で出来た衣装を着ている。トナカ(法衣)は最高でも120ユーロ程度のもを使用している。

ローマ市内には46人のカーディナルと80人の司教が住んでいる。以前は、彼らは高級レストランに行き、ヴァチカンの公用車を使って、友達や知り合いの所に頻繁に行っていた。だが、今では、法王は車を使う必要がある時には「フォードフォーカス」を使い、カーディナルたちは車を使わず、せつせと歩くようになった。法王は贅沢品や流行の物を身につけることを非常に嫌っている。法王は「お金は貧しい人たちに与えるべき」であると常に言っている。